

宮城いきいき便り

いきいきSUNクラブ、宮城いきいき学園の活動を
紹介するページです

学んだ成果、地域で発揮

宮城いきいき学園 3月に卒業式



◆仙南校 和田喜一さん

実践や地域貢献活動に新たな喜びを感じながら活動している。

「学園入学と仲間との出会いがなかったら、私はボランティア活動という今の道を歩んでいなかったかもしれない。新たな出会いで共に過ごすうちに仲間からの刺激を得られ、生き方や考え方が変わった」ときつかけとなったのは、古民家レストラン周辺の環境整備。荒れ放題の庭木の剪定（せんでい）や花壇を整備し、見違えるほどきれいになったことに充実感を味わった。

活動するのは元気なうちの「今でしょ」と背中を押され、18人でサークルを始めた。

何よりも良かったのは、活動を終えた後の会話が弾むこと。時がたつのを忘れ、延々と懇談したのも少なくな

い。活動の場は広がり、感謝の言葉を寄せられるのが励みにもなっている。

「笑顔の花が咲き、幸せな気分になれる自分の時間が流れる。喜んでもらえるために始めたボランティア活動だが、今は笑顔を見ると逆に元気つけられ、励



仙南校文化祭で作品の前に並び、記念撮影

宮城いきいき学園の卒業式が3月に行われる。卒業を間近に控えた仙南校の和田喜一さんと大崎校の小野則雄さんに今の心境をインタビューした。

「う豊かさ」を味わった。加えて「創造の喜び」

「役に立っている自分を知った時の喜び」を得るために活動している。

活動の一環として文化祭の特別部門に出品した。卒業後も引き続き「自分の好きなことをする」「人に喜んでもらう」「多くの感動を得る」の三つを実践していく。自分の好きなことをして誰かが笑顔になるのなら、自分も笑顔になれるという。

今後は介護施設で自立支援の活動をする考え。地域でも折に触れ、園芸を愛する心や楽しさを発信していく。

「まされていることに感謝している」

活動では「関わることの楽しさ」「分かち合



◆大崎校 小野則雄さん

受講できた。テストもレポート提出もなく、なおさら「気楽だった」

学園では講義のほか、さまざまな活動を行った。参加できない人もいたが、そのことを誰

も批判しない。参加できない事情を斟酌（しんしゃく）できる大人の集団でもあった。

在学中は学年委員長を務めたが「起案する、行動する、つくるなど、クラスはすぐ一つにまとまった。それぞれの個性、能力、特技が存分に発揮された。文化祭はその象徴。調整役の学年委員長は出番が

ないほど、まとまっていた」「学園で学んだ仲間は大切な財産。これからも結び付きを大切にした人生を歩みたい」と語る。

「今まで歩んできた人生、多くの方に教えられ、助けられ、励まされるなど、おかげさまでいろいろな借りがあっていくのが、これから歩む人生だ」

学園で先輩たちの活動を見て、地域貢献の大切さを学んだ。居住地の大崎市鹿島台地区で「のびのび生涯学習委員会」に所属し、活

動を始めている。昨年10月には11人で「鎌田三之助翁を語りつくす」を結成。こうした活動も小野さんなりの地域貢献の一つだ。

現代社会は何かにつけ、人間関係の希薄さが指摘される。「日本人の良さを、もう一度見直していいのでは」と小野さん。東日本大震災で気付かされた、分かち合い、助け合いの大切さである。孤独死、限界集落などが身近な問題となってきた。地

域で助け合う、支え合う体制の構築が必要だ。「地域住民が自主的に相互扶助のシステムをつくることできない



大いに盛り上がった大崎校文化祭のステージ発表

か。自分も率先して関わりたい」

今度も学園生の自発的な取り組みに期待を寄せる。「経歴書や履歴

書に捉われない学園。それは個人個人が比較されない、皆が同じ心地よすみかなのです」と語る。

「修学旅行やパークゴルフ、クラブ活動、文化祭など、語るのが難しいほど多くのことを経験した。学園は新鮮で自分がいきいきとなる場所だった」と振り返る。

学園は職歴、学歴などの前歴を探らない、語らないのが原則。皆が同じライン上にいる。「月2回の講義は楽しく